

名寄市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

名寄市では近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、クルマを所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。

当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がしづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、本市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

名寄市郊外部においては、定時定路線型の路線バスでは、非効率な運行となり、また、交通サービスレベルも低いと考えられる。さらに高齢者は、バス停留所までの移動距離に対して負担を感じており、デマンド型交通の導入によって、交通空白地帯を解消するとともに、「買い物」や「通院・通学」などの日常生活に必要な「地域の足」を確保する。

【具体的目標】

デマンド型交通(下多寄線)の利用者数の向上 → 目標270人/月

デマンド型交通(御料線)の利用者数の向上 → 目標200人/月

デマンド型交通(下多寄線)の利用者満足度の向上 → 目標80.0%以上

デマンド型交通(御料線)の利用者満足度の向上 → 目標70.0%以上

令和2年度事業概要

下多寄線(西風連～風連駅～名寄駅)
運行回数 往路4回・復路5回

御料線(風連日進～風連町内～道の駅)
運行回数 往路5回・復路5回

【下多寄線】

利用料金 大人1名	風連 2区	下多寄 3区	下多寄 4区	下多寄 5区	風連 豊里	西風連	共和	豊栄
風連地区まで	300円	300円	300円	300円	300円	400円	400円	500円
名寄地区まで	600円	700円	700円	600円	500円	800円	400円	300円

地域公共交通の現況

- ・JR宗谷本線(名寄、風連、東風連、日進、北星、智恵文、智北駅)
- ・名士バス(株)(市内5路線、郊外5路線)
- ・道北バス(株)(2路線)
- ・士別軌道(株)(2路線)
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)(郊外1路線)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、共同運行)
- ・スクールバス(7路線)

協議会開催状況

- ・令和元年5月29日 令和元年度第1回協議会を開催
名寄市地域公共交通網形成計画の策定について
地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- ・令和元年6月5日 令和元年度第2回協議会を開催
生活交通改善事業計画(バリアフリー化設備等整備事業)について
- ・令和元年12月20日 令和元年度第3回協議会を開催
名寄市地域公共交通活性化協議会専門部会中間報告
高齢者向けバス乗り方ガイドの発行について
デマンド運行の事業評価について
UDタクシーの事業評価について
- ・令和2年5月29日 令和2年度第1回協議会を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

【御料線】

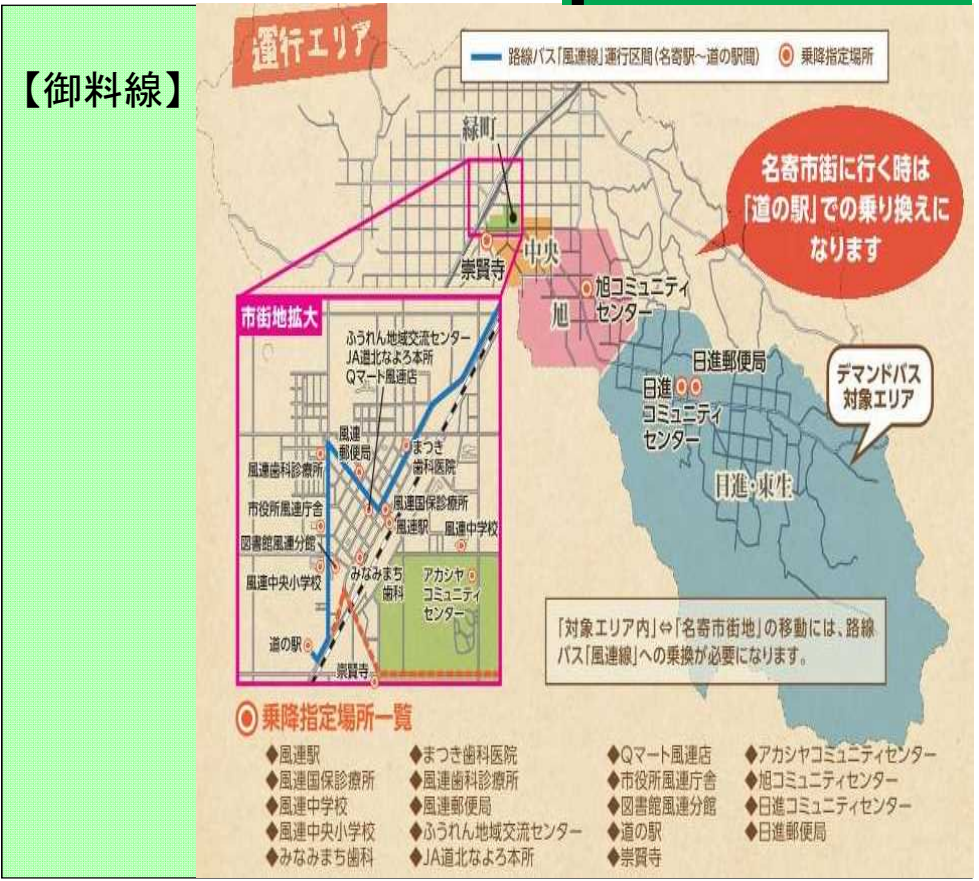
デマンドバス料金表	日進・東生	旭	中央	緑町
対象エリア内の移動	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)
風連市街地までの移動	400円 (高校生以下:200円)	300円 (高校生以下:150円)	250円 (高校生以下:130円)	200円 (高校生以下:100円)

令和2年度事業の実施状況

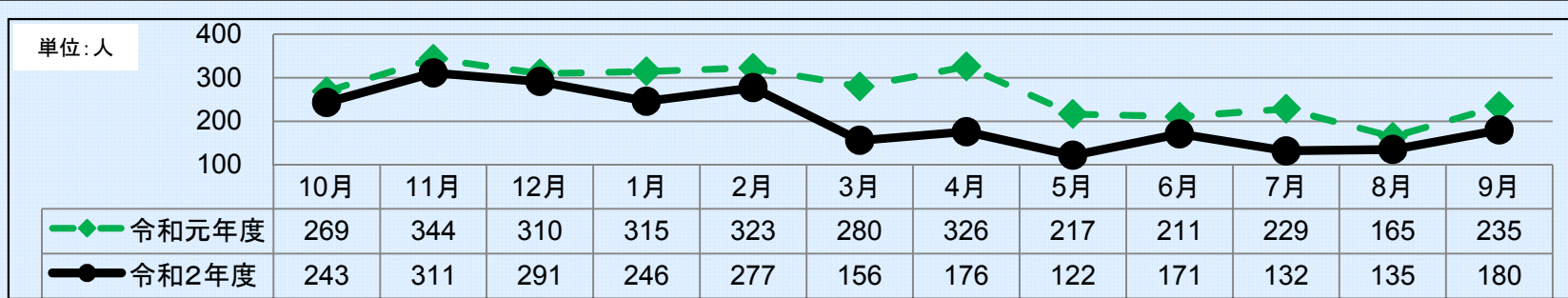
1) プロセス、創意工夫

- ・デマンド型交通については、利用者になじみのない予約型の運行システムのため、PRチラシやホームページでの周知を継続して実施を行った。
- ・とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響により老人クラブ等の会合で利用を呼びかけるといった機会が無かったため、広報誌を用いて公共交通全般に関する利用促進、周知啓発活動を行った(R2.7月号にて掲載)。
- ・アンケート調査を実施し、乗降指定箇所の見直しを行った(R1.10に1箇所)。

2) 運行系統

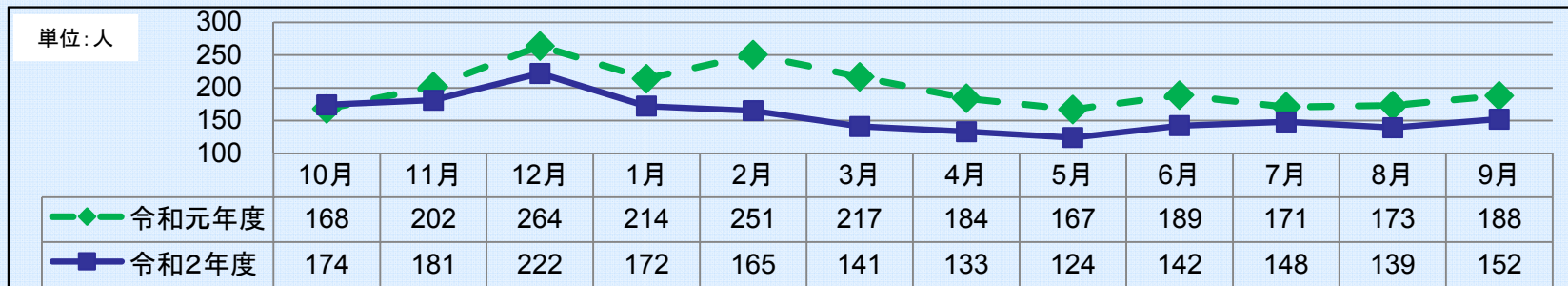


3) 利用実績



下多寄線

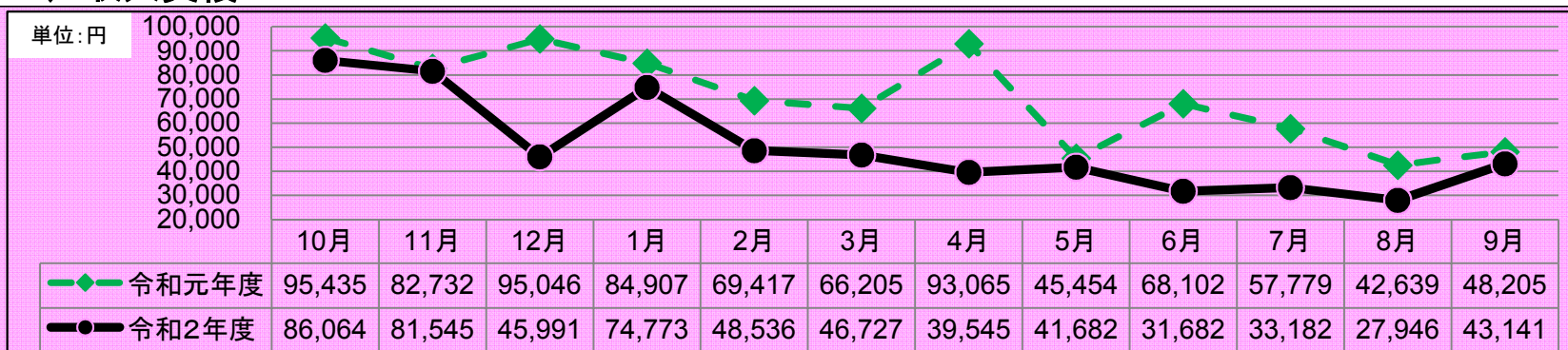
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
3,224	1,979	1,245
2,440	1,649	791



御料線

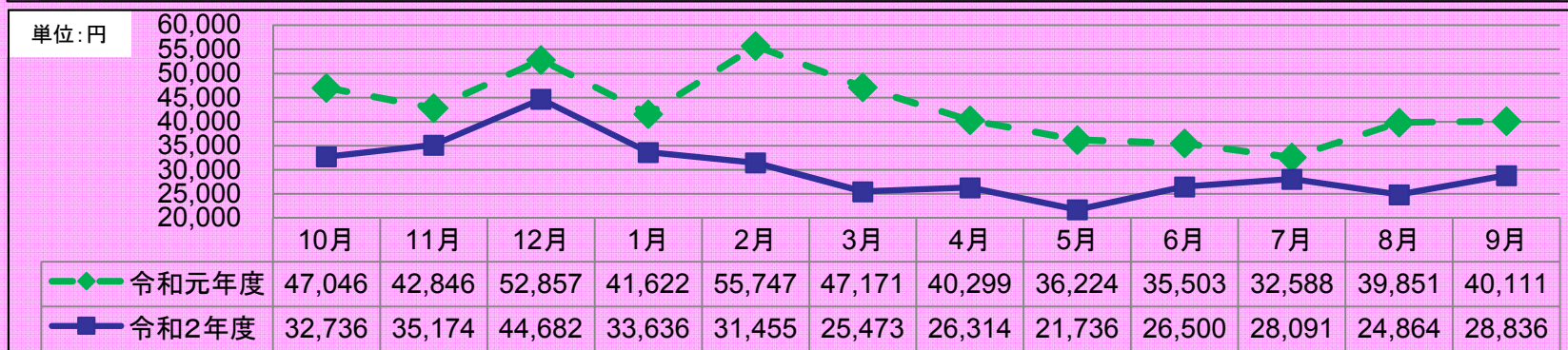
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
2,388	2,388	0
1,893	1,890	3

4) 収入実績



下多寄線

合計
848,985
600,814



御料線

合計
511,865
359,497

5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

・デマンド型交通の利用者数の向上

下多寄線

月平均利用者数 目標270人／月 → 実績203人／月
新型コロナウイルス感染症の影響のため利用が減少しており、
目標値▲67人／月であった。

御料線

月平均利用者数 目標200人／月 → 実績157人／月
新型コロナウイルス感染症の影響のため利用が減少しており、
目標値▲43人／月であった。

・デマンド型交通の利用者満足度の向上

下多寄線

目標 80%以上 → 100%

御料線

目標 70%以上 → 100%

令和2年4月実施のアンケート調査において、下多寄線及び御料線の満足度が100%となった。

・効果

冬期間のみならず、通年の利用があり、住民への公共交通手段の提供が適切に行われた。

7) 事業の今後の改善点

【下多寄線】

運行から9年が経過し、地域への定着は着実に進んでいる。
しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴う外出自粛により、大きく利用者が減少する結果となった。
来たるべきアフターコロナに向けて、新規利用者の拡大に努めるとともに、外出を促す取り組みについて今後検討を進めていく。
一方、今後需要が戻らない可能性もあることから、デマンド率や乗り合い率の改善を念頭に路線の在り方について検討を視野に入れる必要がある。

【御料線】

運行2年目なので、引き続き地域への定着を図っていく必要がある。
現状、市街地からデマンドエリアへの通勤利用者が1名いるため、利用実績がそれなりに出ているが、デマンドエリアの住民利用は新型コロナウイルス感染症の影響もあり少ない状況となっている。
そのため、アフターコロナに向けて、新規利用者の拡大に資する取り組みの準備を進めていく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を達成することができなかったことはやむを得ない面があるものの、下多寄線の利用者数は減少傾向にあることから、利用者ニーズのくみ上げを行うとともに、引き続き地域公共交通網形成計画に基いた利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。